

中学生・保護者の皆さまへ

2021年からの大学入試改革に向けた吉原高校の取組

現在の高1生が受験する入試から、入試制度が大きく変わります。センター試験から大学入試共通テストに変わるとともに、以下に挙げた3つの大きな流れがあります。

受験生の**学力の3要素**について多角的・総合的に評価する入試



学力の3要素

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度



1 「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」を一層重視

大学入試共通テストでは、これまでのセンター試験になかった記述式問題が導入される。最初は国語と数学で実施され、2024年度以降からは地理歴史・公民や理科分野に広げることが検討されている。日頃から考える力や発信する力を身に付ける必要がある。

2 「主体性」を評価するために、調査書や本人が記載する情報を重視

一般入試でも調査書や志望理由書が重視され、高校での活動の記録を残すことが重要になる。ポートフォリオ（活動記録）に探究活動、委員会活動、部活動、ボランティア活動で何を学んだか、活動を通してどう成長したかを記録しておく必要がある。

3 グローバル化が急速に進む中、英語のコミュニケーション能力を重視

これまでのセンター試験の英語では「読む」「聞く」の2技能のみを評価していたが、新テストでは英語は4技能「読む・聞く・話す・書く」を評価する。すでに4技能評価を行っている民間の資格・検定試験（TOEIC, TOEFL, GTEC, 英検等）を活用する。

吉原高校では

◎ 授業で思考力や表現力を身に付ける

普段の授業で、基礎基本を押さえながら、考える場や発表する場を設け、振り返りを行う。また、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどで表現力を身に付けさせる。OKJ（教えて考えさせる授業）を提唱されている東京大学大学院教育学研究科の市川伸一教授を招いて授業への指導助言、及び講演をしていただく予定です。（1/10 予定 見学可）

◎ 「吉高ゼミ」で探究力、主体性、表現力などを身に付ける

総合的な学習の時間「吉高ゼミナール」で、自らテーマを選び、それについてリサーチし、まとめ、プレゼンテーションを行う。

◎ クラウドサービス「Classi」を使って「ポートフォリオ」をデジタル化

部活動や学校内外の活動成果、取得資格など、高校生活の様々な活動記録を入力し、デジタル化した高校生活の活動の記録を蓄積。多面的評価の新入試に備える。

◎ 個別の小論文指導・面接指導

これまで培ってきた、本校の大学入試AO・推薦への小論文指導・面接指導のノウハウを、多角的・総合的に評価する新大学入試に生かす。

◎ 校外学修科目「ボランティア実践」2単位取得

一部活一ボランティア運動など、すべての生徒がボランティア活動に参加する。国際科の生徒は英語やポルトガル語、スペイン語など他言語を使った地域貢献を行う。希望者対象の校外学修科目「ボランティア実践」では2単位が認定がされる。

◎ 英語4技能をバランスよく育成するための授業改善

県からコアスクール（英語教育）の指定を受け、静岡大学教育学部巨理陽一准教授の指導を受け「英語4技能をバランスよく育成するための授業改善」を行っている。

◎ 外部講師による「TOEIC講座」「スピーキング力・ライティング力アップ講座」実施

コアスクールの取組のひとつとしてECCから講師を招いて「TOEIC講座」を開講。また、県の事業「技芸を磨く実学の星」では地域の英会話スクールからネイティブ講師を招き、スピーキング力・ライティング力アップ講座を開講。英語4技能育成と英語資格試験に対応。

◎ エンパワーメントプログラムの実施

海外の大学生や大学院生がリーダーとなって実施する、英語の思考力・表現力を身に付けるプログラムを12月に希望者32名の参加で実施。（12/26、27、28 見学可）

◎ プレゼンテーションで表現力を身に付ける

「異文化理解発表会」を開催し、イングリッシュキャンプ、オーストラリア研修、姉妹校の台湾馬公高校との交流、モンゴル高校生交流等での異文化理解・交流体験を生徒がパワーポイントなどにまとめ、発表。プレゼンテーション能力の向上を目指す。



プレゼンテーション



吉高ゼミ



Classiによるポートフォリオ



ボランティア活動



TOEIC 講座



国際理解発表会